

カラマツイトヒキハマキ

6月にカラマツの葉を綴り合わせて食害する緑色のイモムシ（幼虫）。最大長約20mm。背中に2本の黄色または黒色の縦縞がある。

カラマツ林でときどき多発する。葉を食害された林は6～7月に赤く目立つが、8月までには葉が回復する。



1. 幼虫，終齢。1990/6/27。新得町，カラマツ。



2. 雄成虫，体長8mm。1を飼育。



3. 卵。葉を一部除去して撮影。美唄市，カラマツ上。



4. 蛹。1986。美唄市，カラマツ上。

【学名】 *Ptycholomoides aeriferana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道，本州；ユーラシア北部。

【特徴】

カラマツには巣を作る食葉性の昆虫が多数いるが，体が緑色で背中に2本縦線を持つのはカラマツイトヒキハマキだけである。なお，背中の縦線は幼虫が小さなときは黄色，終齢では線の内側が黄色で外側が黒い。

【生態】

年1世代。小さな幼虫（2齢）が枝や幹先端の粗皮下に繭を作って越冬する。春に葉を食べて成長する。小さなときは輪生葉の中央部を筒状に束ねる。終齢幼虫は枝上に糸をかけて葉を食べる。6月に蛹になる。成虫は7月に発生。雌成虫は脚で葉を束ね

て、葉と葉の間に産卵する。産卵直後の卵は粘着性があるため、産卵後も葉が卵を覆い隠す。孵化した幼虫は枝や幹先端に移動し粗皮の下で繭を作り、その中で脱皮した後に越冬に入る。

发育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（休眠・越冬）	+++	+++	+..		..	+++	+++	+++	+++
幼虫（摂食・成長）			..■■■	■■■..					
蛹				..◇	◇..				
成虫・卵				..	○○..				

【被害と防除】

カラマツ林でときどき広域に大発生するが、たいてい1～3年で終息する。食害により木が枯れた例は知られていない。防除は普通必要とされない。

庭木などで多発した例は知られていない。

【文献】

*1967. 上条一昭, 鈴木重孝. カラマツイトヒキハマキの寄生性昆虫. 北海道林業試験場報告, 5: 25-32.

*1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツイトヒキハマキ hamaki/karaito/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/24.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG, tamago.JPG, sanagi.JPG

「写真1～4」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1986-1990.